

八幡市の行財政改革「財政危機」強調し、財源確保

国保や下水道への繰出し金カット

市民負担にしわ寄せも

八幡市は、2022年度に向けた庁舎建て替え事業の経費、今後の歳入不足を理由に2018年度の行財政改革計画を示しました。

計画（右表参照）は、歳出の5分野で見直し、事業費ベースで4億1612万円の削減を明記しています。歳入では、2億5167万円を予定。

歳出削減は、すでに今年度予算編成で実施済みであり、歳入の増加とあわせ6億6780万円の財源を見通しています。市は3月議会で「5年間で25億円の収支不足となる」と強調しましたが、その大半は確保したことになります。

医療費無料化などの支援バツサリ

市の行財政改革では、市民負担の増加につながる項目が目白押しです。

計画の最大項目である「その他事業の見直し」では、国民健康保険の法定外繰り入れの削減で1億1100万円、下水道事業への繰り入れ1億8950万円を削減しています。

たとえば、市の子ども、老人、障害者、ひとり親世帯の医療費を軽減する施策にたい

2018年度の見直し額

内容		金額
歳	補助金、負担金	1085万円
	給付事業	58万円
	委託事業	1500万円
出	職員体制	1604万円
	その他事業	3億7364万円
歳入確保		2億5167万円
合計		6億6780万円

し、国は診察が増えるとして補助金をカットしていました。この補助削減にたいし、市は一般会計から補てん（2017年度予算で5100万円）していましたが、今年度から中止しました。国の補助金削減が保険料に跳ね返ることになります。下水道の整備事業などに充てていた繰り入れもやめています。

小学校のクラブ活動備品購入費100万円は全廃、学校図書購入費も削減しました。

歳入では水道料金値上げで1億3524万円の増収を見込んでいます。

市民の負担増、サービス切り捨てを避け、市民の暮らしを守る立場に立つべきです。

日本共産党演説会

6月9日(土)

18時30分～

生涯学習センター・ホール

山下よしき

党副委員長
参院議員

倉林明子

参院議員
京都選挙区

森下よしみ

府会議員

八幡市議団

お話しする人